

	発言要旨	委員名	回答
1	住用地区の小・中学校のデータを示して欲しい。	松山委員	第2回の戦略会議で3地区の資料を示します。
2	人口を増やすことに注力するのではなく、子育てや生活の「質」を上げること、戦略のポイントとして挙げていただきたい。	宇都委員	計画案P6の2.戦略の目標(2)子育て世代を増やす！において、子育て環境の「質」の向上として「遊び場づくりや情報発信など子育て世代に向けたサービスの充実に努めます。また、子育ての“困った”を相談しやすい環境づくりにも取り組む」と記載しています。 また、同(4)人口減少に対応できるしまづくり！において、生活の「質」の向上を挙げております。 【現状の取組】 「子ども・子育て応援民間トライアル事業」：雨の日や炎天下での遊び場がない子育て課題の解決に向け、新たな子育てサービスを創出する事業者への助成を行っています。
3	人口増に向けた受け入れ体制も重要であり、定住促進住宅など住環境整備の充実も検討していただきたい。	岩田委員	計画案P12の＜具体的な施策＞（3－1）定住促進による活気のあるしまづくりにおいて、各施策により「地域住民の生活環境の保全及び定住促進に向けた総合的な住環境を整備します」と記載しています。 【現状の取組】 ・空き家バンク制度 ・移住・定住住宅購入費補助
4	住環境については、空いている家を貸したいけれども、仏壇がある、先祖の写真があるなどで貸せない場合がある。そういう方を手助けすることができれば、もっとスムーズに空き家の活用ができるのでは。	山田委員	計画案P12の＜具体的な施策＞（3－1）定住促進による活気のあるしまづくりにおいて、各施策により「地域住民の生活環境の保全及び定住促進に向けた総合的な住環境を整備します」と記載しています。 【現状の取組】 「移住・定住住宅リフォーム等助成金」などで、家財処分費用を対象にすることを検討しています。
5	KPIの設定について、いくつか施策の方向性に合致していないと思われる。	山下委員	KPIについて整理しました。
6	商店街も後継者不在で事業をたたまる事業者さんもいるので、行政の方で、受け継ぎたいという方とのマッチングなどもお願いしたい。	恵委員	事業承継については、商工会議所・商工会や各種金融機関など専門的な知識を有した関係機関が相談を受けています。 また、鹿児島県では、後継者を探している県内の商店街を対象に「鹿児島県事業継承マッチング事業」を実施しているほか、事業継承の相談等ができる「鹿児島県事業継承・引継ぎ支援センター」があります。
7	雇用サイドと求職者との需給マッチングだけの問題ではないと思う。事業者を支援しますよという視点が少し欠けているのでは。	泉委員 座長	計画案P14の＜具体的な施策＞（4－1）民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」の総合対策の推進において「雇用する側と雇用される側が相互に幸せな環境となるため、「働きやすい職場づくり」に取組む事業者を応援します。また、人材誘致機会創出のため、求人活動を積極的に取組む事業者を支援する」と記載しています。 【現状の取組】 ・「求人活動モデル創出事業」 ・「働きやすい職場づくり応援事業」
8	島に戻ってくる方は、お仕事の条件だけではない、生活・暮らしをまるごと奄美に移転させるということは仕事、暮らし、子どもの生活、すべてがからみあっていて、自分の意志だけでは帰ってくることができない。施策の方向性を列挙する段階だと思うが、列挙した後に串を通す必要がある。	座長	計画案P6の2.戦略の目標(1)社会動態をプラスにする！において、「地域住民やUIターン者が、本市に帰りたい、住みたいと思えるしまとなるように「就業支援・住まい確保」に取組むとともに、医療や福祉、防災など安心安全に生活するための定住環境の整備にも取組みます」と記載しています。 また、(2)子育て世代を増やす！において、「子育て世代が抱える悩みなどをなくすため、個人のニーズに応じた多様な働き方を推進するとともに、遊び場づくりや情報発信など子育て世代に向けたサービスの充実に努めます。また、子育ての“困った”を相談しやすい環境づくりにも取組みます」と記載しています。
9	地域の中での青年団の役割が多すぎる。家族もあり、仕事もあり、地域を支える役割もあり、どうしたらいいのか。 素案P5の3.戦略の全体像にも、「しまの誇りを継承する」「みんなでしまさばくりをしよう」と記載されている。どうしたら、みんなでしまさばくりができて、人との付き合いが次の子どもたちに伝わっていくのか。	元井委員	計画案P22の＜具体的な施策＞（8－1）集落や地域活動の活性化による地域づくりににおいて、「集落・地域の元気のため、互いに知恵を出し、汗をかき、手を取り合った地域づくりを推進する」と記載しています。 【現状の取組】 ・「市民協働推進事業」 ・「紡ぐきよらの郷（しま）づくり事業」 ・「あまみっ子ふるさと学習支援事業」

10	一口に奄美市と言っても、子育て環境や教育を中心に行政サービス面で名瀬・笠利・住用の3地区に大きな差がある。	島袋委員	計画案P3の基本理念（1）みんなで生活満足度向上を目指しますにおいて、「奄美市全体として均衡ある環境整備を進めながら、孤立化対策や集落の人口維持など3地区それぞれに特化して取り組むべき課題、地区ごとに持つ特徴や魅力の発揮など、3地区の個性に合わせた取り組みを話し合い、実行していきましょう」と記載しています。 【現状の取組】 今年度、住用・笠利の両地区において「地域創生戦略」を策定中。
11	デジタル技術の活用による雇用創出や社会課題の解決に期待している。	田中委員	計画案P15の＜具体的な施策＞（4－3）多様な働き方の推進において、「深刻化する人材不足解消に向けて、在宅ワークやワーケーションの推進」に取り組むと記載しています。 同P17の＜具体的な施策＞（5－4）デジタルを活用した社会課題解決において、「多様な場面でデジタル技術の活用を目指し、しまにおける様々な課題解決を図ります」と記載しています。 【現状の取組】 ・「働きやすい職場応援事業」
12	デジタル技術による社会課題の解決という記載において、デジタル人材の育成が盛り込めていない。	座長	計画案P17の＜具体的な施策＞（5－4）「デジタルを活用した社会課題解決」において、「農業などの担い手の高齢化や多くの業種における就業者の減少に対応するため、各業種におけるデジタル人材の育成を推進する」と記載しています。 【現状の取組】 ・「ICT活性化推進事業」
13	航空券の離島割引は、奄美大島は鹿児島の中だけしか使えない。同じ離島でも沖縄は、東京や大阪に行く割引がある。奄美でも実現したら、二拠点生活者が増えるのではないかな。	藤江委員	計画案P16の＜具体的な施策＞（5－1）「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化において、「奄美大島の価値を理解した観光客が多く訪れるよう、奄美大島の情報発信や訪れやすい環境整備を推進する」と記載しています。 【現状の取組】 令和6年度より離島割引の対象路線に沖縄が追加されたほか、観光客向けに奄美群島の魅力をPRするため、「奄美群島周遊キャンペーン」で旅行代金の割引などを実施しています。
14	高校を卒業して島外に出た若者を追跡調査できれば、（定住施策等に関して）何かヒントが得られるのではないかな。	渡委員	毎年、鹿児島大学と共同で「幸福度アンケート調査」を実施しており、来年度は新たに各年代ごとにインタビューの実施を検討しています。 アンケートの中で、Uターン者を対象になぜ戻ってきたのかを質問する項目について設定することも検討します。
15	奄美の魅力を伝えるガイドやアクティビティに関するルールづくりなど、観光の質を上げる取組を入れていただきたい。	恵委員	計画案P16の＜具体的な施策＞（5－1）「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化において、「体験型観光として魅力を伝えるエコツアーガイドの育成・確保など奄美の世界自然遺産登録による観光客増対応し、将来にわたって素晴らしい資源を残していくためエコツーリズムを推進」すると記載しています。 【現状の取組】 奄美大島エコツアーガイド協議会（事務局：奄美市紬観光課）では、認定エコツアーガイドの育成を行っています。また、金作原は認定エコツアーガイドの同行や車両台数の制限をお願いするなどのルールを作り、観光の質を高めるよう取り組んでいます。
16	10代の転出が多いが、奄美に住民票置いたまま、通学できると良い。例えば、オンラインで受講できる学校と高校生とのマッチングや、通学費用の補助など。そうすれば、彼らは住居を移さずに島外に進学ができるという面白い取り組みができるのではないかな。	山下委員	計画案P9基本目標Ⅰ「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」において、「将来は「しまに帰ってきたい」と思う子どもたちが増えていくしまを目指します」と記載しています。 【現状の取組】 ・株式会社Schooとの包括的パートナーシップ協定による無料オンライン学習の提供。

17	子供が入院中に一番困るのは、ドクターとか医療従事者に「困った」が言えないこと。医療に対してもお産に対しても不安なことはいっぱいある。医療について、クレームから喜びまでいっぱい発言できる場所があればいいと思う。	島袋委員	計画案P6の2.戦略の目標(1)子育て世代を増やす！において、「子育ての”困った”を相談しやすい環境づくりにも取り組みます。」と記載しています。 同P12の＜具体的な施策＞(2-3)医療の確保において、「不安を解消するため、県や関係団体と一緒に医療の確保に向けて努めます」と記載しています。 【現状の取組】 ・「子ども家庭総合支援拠点事業」 ・「子育て世代包括支援センター事業」 ・「出産・子育て応援交付金事業」
18	観光・雇用に関することだが、奄美出身の観光ガイドがほとんどいないのは、すごくもったいないと思う。 子どもたちに島の文化に触れる行事、機会を増やしてほしい。島に帰ってきたいとか、島を愛する気持ちも、もっと増えるのでは。	藤江委員	計画案P16の＜具体的な施策＞(5-1)「ありのままのしまの魅力」を引き出す観光関連産業の進化において、「体験型観光として魅力を伝えるエコツアーガイドの育成・確保など奄美の世界自然遺産登録による観光客増対応し、将来にわたって素晴らしい資源を残していくためエコツーリズムを推進」と記載しています。 同P20の＜具体的な施策＞(6-3)地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進において、「地域の方々との触れ合いを大切にしながら郷土のことを学び、自然や文化、歴史を誇りに思い、いつまでも守り続けたいと思う気持ちを持つ子どもたちを育成」と記載しています。 【現状の取組】 ・奄美大島エコツアーガイド協議会（事務局：奄美市紬観光課）では、認定エコツアーガイドの育成を行っています。 ・「あまみっ子ふさと学習支援事業」
19	子どもたちは本物や一流に触れると感化されて、子どもの可能性が飛躍的に伸びていく。奄美には、紬や黒糖焼酎、田中一村など世界に誇れる水準のものはいっぱいあると思う。関係省庁と自治体が連携して、本物を子どもたちに見せてあげる教育ができれば、奄美なりの独自の教育ができてくる。	岩田委員	計画案P19の＜具体的な施策＞(6-1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進において、「伝統や文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うことや望ましい勤労観・職業観が身につく教育を推進」と記載しています。 【現状の取組】 ・「あまみっ子ふさと学習支援事業」
20	実際のところ奄美市内に大学を誘致するのはなかなか難しいと思うが、島を出て勉強する学生たちへの生活支援として、奨学金制度を検討できないか。	宇都委員	計画案P19の＜具体的な施策＞(6-1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進において、「奨学金制度など、学びのセーフティネットの充実を推進します」と記載しています。 【現状の取組】 ・「ふさと創生人材育成基金奨学資金事業」 ※ 新たに、奨学生を雇用する企業等が代理返還する制度の準備を進めています。
21	素案P4の「戦略のポイント」という表現が引っかかる。戦略のポイントと書いているが、7ページ全体を書いているだけに思える。 社会動態の目標値から、(1)(2)(3)と芋づる式に設定されているのは、相関関係が出てしまうので望ましくない。 また、P8の施策の方向性で、基本目標が生活満足度の向上を目指そうということで、幸福度調査の生活満足度の指標を持ってきているが、目標値として設定したらダメということ強く申し上げておきたい。	座長 (馬場委員)	「戦略のポイント」について「戦略の目標」と整理します。 KPIについても整理しました。